

公益財団法人日本水泳連盟学生委員会 安全・安心マニュアル

1. 目的

本マニュアルは、公益財団法人日本水泳連盟学生委員会（以下、「学生委員会」という。）が主催及び運営する以下の大会（以下、「主催大会」という。）における加盟校水泳部の学生及び指導者の安全を確保するとともに、学生が安心して競技に取り組める環境を整備するために必要な事項を定めることを目的とする。

- A. 全国国公立大学選手権水泳競技大会
- B. 日本学生選手権水泳競技大会
 - （ア）競泳競技
 - （イ）飛込競技
 - （ウ）水球競技
 - （エ）アーティスティックスイミング競技
 - （オ）オープンウォータースイミング競技
- C. 学生委員会各支部主催大会

2. 適用範囲

本マニュアルは、学生委員会に加盟する全水泳部に適用する。また、本マニュアルは、これらの水泳部に所属する全ての者に活用されることを想定している。

3. 体制

加盟校水泳部の学生の安全確保に万全を期すために、学生委員会に以下の者を置く。

- a. リスク管理責任者
主催大会に関するリスク管理全般に責任を有する者としてリスク管理責任者を置く。原則として学生委員長をリスク管理責任者とする。
- b. 事故対応責任者
主催大会中に発生した事故に対応するための責任者として事故対応責任者を置く。原則として開催地の支部長を事故対応責任者とする。
- c. 事故対応担当者
主催大会中に事故が発生した際に事故対応責任者の指示を受けて適切な事故対応を行う事故対応担当者を置く。原則として大会総務を事故対応担当者とする。

4. 心構え

主催大会の運営に関わる全ての者は、主催大会が安全に遂行されるよう日頃から必要な事前の対応を施すとともに、主催大会において、万一事故が発生した場合、冷静かつ迅速に対応し、事故の影響を最小限に留めるよう務め、再発防止に万全を期すものとする。

5. 平常時の対応

事前の事故予防活動として以下の対応を実施する。

a. リスクの洗い出し

- i. リスク管理責任者は、主催大会中に発生する可能性のある事故とそれらの顕在化を防ぐための確認事項等を取りまとめた別紙1「事故のリスク一覧」の内容を実状に合わせて適宜更新する。

b. 施設等の点検・改善

- i. リスク管理責任者は、主催大会の準備に当たっては、大会会場の施設管理者と連携し、別紙2「施設安全のチェックシート」を用いて施設、設備、用具を点検し、改善の必要な施設、設備等を特定した場合には施設管理者に必要な対応を依頼する。

c. 保険加入の推奨

- i. リスク管理責任者は、各主催大会の開催に当たり、主催大会に出場する水泳部の学生及び指導者を対象とした保険に加入し、その内容を参加者へ周知する。
- ii. リスク管理責任者は、出場者に対して、適宜必要な保険へ加入するよう指導する。

d. 研修の実施

- i. リスク管理責任者は、毎年、加盟校水泳部の学生及び指導者の安全管理意識の向上を図るため、加盟校水泳部の学生及び指導者に対し、一般社団法人大学スポーツ協会（以下、「UNIVAS」という。）が開催する安全管理に関するセミナーの聴講を指示する。
- ii. リスク管理責任者は、前項の指示を行う際には、同セミナーのアーカイブ動画が、後日、My UNIVAS（UNIVAS が提供する運動部学生向けの情報プラットフォーム）上に公開されることを紹介するとともに、聴講できなかった学生及び指導者に対し、アーカイブ動画を視聴するよう要請するものとする。

e. 事故情報・事故事例の収集・共有

- i. リスク管理責任者は、毎年5月に、前年度1年間に開催された主催大会中に発生した事故（救急車を呼んだ場合の事故に限る。）の情報を、加盟校水泳部に共有する。
- ii. リスク管理責任者は、前項の事故情報の共有の際、別途可能な範囲で収集した、他の競技団体の事故情報及びメディアにて報道された事故情報を併せて共有する。
- iii. 加盟校水泳部の主務及びマネージャーは、各部にてミーティングを行い、前2項により共有された事故情報を用いて水泳部員の安全管理意識の向上を図る。

6. 事故発生後の初動対応

主催大会中に怪我人が発生した場合、事故対応責任者及び事故対応担当者が中心となり（事故対応責任者及び事故対応担当者が、怪我人が発生した現場にいない場合には、現場にいる者で協力して）、怪我のレベルに応じて以下の初動対応を行う。

a. 怪我のレベルに応じた初動対応の実施

怪我人発生

怪我人の状態確認

(怪我人の状態確認は、最悪を想定したうえで対応を行う。)

レベル 1

- ・ 歩行可能
- ・ 擦り傷や捻挫など
- ・ 意識もしっかりしている

応急手当

競技復帰が可能かの判断

レベル 2

- ・ 歩けない
- ・ 骨折の疑い
- ・ 頭、首を受傷した

手当・処置

病院連絡・準備

関係者への報告

レベル 3

- ・ 普段通りの呼吸なし
- ・ 意識・反応がない
- ・ 手足が動かない
- ・ 大量出血

119 番通報

緊急手当て (AED, 止血等)

関係者への報告

救急車を呼んだ時に必要な要員と役割！

- ・ 負傷者に対応する人 (5~6 人)
- ・ AED、救護資機材を持ってくる人 (1~2 人)
- ・ 記録係 (時系列、情報を紙にまとめる人) (2 人)

b. 事故情報の報告

- 事故対応責任者及び事故対応担当者 (事故対応責任者及び事故対応担当者がいない場合には、怪我人が発生した現場にいる者) は、レベル 2、3 と判断した場合には、怪我人の身体的安全確保 (手当・処置、119 番通報、病院連絡・準備、緊急手当て) を行った後、電話・無線機 (インカム) 又は別紙 4「事故発生報告書」を用いて速やかにリスク管理責任者に状況を報告する。なお、電話等口頭による報告の場合は、のちに別紙 4「事故発生報告書」を作成する。
- 前項の報告を受けたリスク管理責任者は、事故対応責任者及び事故対応担当者と協力して事故対応を行う。
- リスク管理責任者は、「事故発生報告書」を受領した場合には適切に保管する。

【緊急連絡先】

当連盟事務局の代表電話（不在の場合は大会役員に転送されるように設定）、もしくは大会本部役員の携帯電話とする（大会前に緊急連絡先として特定し、大会要項、連絡事項等で周知する）。

7. 初動対応後の対応

発生した事故への初動対応が完了した後に、以下の対応を実施する。

a. 原因究明・再発防止

- i. 事故対応責任者は、救急車を呼ぶ事故が発生した場合には、当該事故の初動対応が完了した後に、遅滞なく当該事故が発生した原因を特定するとともに、再発させないための防止策を検討し、その結果を別紙5「事故原因究明・再発防止策検討シート」にとりまとめ、リスク管理責任者に提出する。
- ii. 前項の検討シートを受領したリスク管理責任者は、その内容を確認し、記載漏れなどがある場合には再提出を求め、記載内容が適切と判断した場合には、その旨を事故対応責任者に回答し、再発防止の徹底を指示する。
- iii. 前項の回答を受領した事故対応責任者は、関係する加盟校水泳部の学生に再発防止策を周知し、その徹底を指示する。
- iv. リスク管理責任者は、事故の発生原因が施設に起因するものであった場合には、大会会場の施設管理者に必要な対応を要請する。

8. ハラスメントの防止

ハラスメントの防止活動として以下の対応を実施する。

a. ハラスメント研修の実施

- i. リスク管理責任者は、毎年、加盟校水泳部の学生及び指導者に対し、UNIVAS が開催する、ハラスメントに関するコンプライアンス研修の聴講を指示する。
- ii. リスク管理責任者は、前項の指示を行う際には、同セミナーのアーカイブ動画が、後日、My UNIVAS 上に公開されることを紹介するとともに、聴講できなかった学生及び指導者に対し、アーカイブ動画を視聴するよう指示するものとする。

b. ハラスメントに関する相談窓口の周知

- i. リスク管理責任者は、競技団体内に設置されたハラスメントに関する相談窓口を公式ホームページ上にて周知する。また、学外に設置された相談窓口として、加盟校水泳部に別紙6「UNIVAS 相談窓口のご案内」を配布することにより UNIVAS 相談窓口を紹介する。

9. 本マニュアルの閲覧環境の整備

リスク管理責任者は、加盟校水泳部の指導者及び学生が本マニュアルをいつでも閲覧できるよう、各支部のホームページ等に本マニュアルの最新版を掲載する。

10. 本マニュアルの改廃

本マニュアルの改廃は、学生委員会の決議をもって行う。

制定・改廃履歴

2025 年 8 月 1 日制定

〔添付資料〕

- ・別紙 1「事故のリスク一覧」
- ・別紙 2「施設安全のチェックシート」
- ・別紙 3「保険加入の推奨について」
- ・別紙 4「事故発生報告書」
- ・別紙 5「事故原因究明・再発防止策検討シート」
- ・別紙 6「UNIVAS 相談窓口のご案内」

(別紙1)

事故のリスク一覧

〔策定・更新日〕 2025年8月1日

〔実施者〕 役職:学生委員長 氏名:三友 礼人

プレーに関連する事故	
事故の種類	事故を顕在化させないためのチェックポイント
施設、用具の整備に起因する事故	<input type="checkbox"/> 破損、危険な突起物の有無の確認
	<input type="checkbox"/> 倒れる危険性のあるものの固定状況の確認
	<input type="checkbox"/> 緩み、腐食、水濡れの確認
施設・用具の配置に起因する事故	<input type="checkbox"/> 適切な活動人数の考慮
	<input type="checkbox"/> 安全を確保した用具の準備
	<input type="checkbox"/> 安全な動線の確保(安全な配置)
	<input type="checkbox"/> 良好な環境の確保(水温、室温、照明、換気など)
健康・身体能力の管理に起因する事故	<input type="checkbox"/> 無理をさせない
	<input type="checkbox"/> 睡眠不足か
	<input type="checkbox"/> 不安定な心理状態か
	<input type="checkbox"/> 心疾患はないか
	<input type="checkbox"/> 試合、競技を安全に行うためのスキルは十分か
気象状況	<input type="checkbox"/> 雷鳴が聞こえたら活動を中止し、屋内へ避難。雷の音が止んでも20分は屋外に出ない
	<input type="checkbox"/> 熱中症の予防
その他	<input type="checkbox"/> 特に冬季活動時、十分な準備運動を行っているか
	<input type="checkbox"/> 頭のケガの場合、軽微な事故でも注意(影響が後で出る可能性)

施設に起因する事故	
事故の形態	確認事項
転落事故	<input type="checkbox"/> 立入禁止場所の把握、施錠
	<input type="checkbox"/> 防護柵の設置
	<input type="checkbox"/> 屋上
	<input type="checkbox"/> 天窓
	<input type="checkbox"/> バルコニー
	<input type="checkbox"/> 低い手すり
	<input type="checkbox"/> 窓
	<input type="checkbox"/> ひさし
	<input type="checkbox"/> 吹き抜け
	<input type="checkbox"/> マンホールの蓋の開放
衝突事故	<input type="checkbox"/> 石、金属の露出
	<input type="checkbox"/> 面取りしていない柱
	<input type="checkbox"/> 大きなガラス(視認性の確保等)
転倒事故	<input type="checkbox"/> 水濡れ(プールサイド、雨漏り等)
	<input type="checkbox"/> 床材の剥がれ
挟まれ事故	<input type="checkbox"/> レーンロープの接続部(カバー有無)
	<input type="checkbox"/> 扉、窓、戸袋等の隙間
	<input type="checkbox"/> 防火扉、シャッター
	<input type="checkbox"/> 門、側溝の蓋
	<input type="checkbox"/> その他、開口部
落下物による事故	<input type="checkbox"/> 天井材、外壁材
	<input type="checkbox"/> 天井への設置物(スピーカー、照明、テレビ等)
	<input type="checkbox"/> 書棚等への収容物
倒木、落枝	<input type="checkbox"/> 枯れた樹木、根のはり具合
	<input type="checkbox"/> 強風で折れた枝の落下

(別紙2)

施設安全のチェックシート

確認日	年 月 日
確認者	所属: 氏名:

施設名	確認項目	異常なし	備考
共通	救護所(医務室)がある	<input type="checkbox"/>	
	緊急車両の要請手順の確認ができている	<input type="checkbox"/>	
	緊急車両の誘導経路の確認ができている	<input type="checkbox"/>	
	応急救護用品・担架がある	<input type="checkbox"/>	
	AEDがあり、使用可能な状態である	<input type="checkbox"/>	
	WBGT計がある	<input type="checkbox"/>	
	非常口付近に障害物がない	<input type="checkbox"/>	
	消火器・消火栓、防火シャッター付近に障害物がない	<input type="checkbox"/>	
プール	プール、プールサイド等に凹凸(剥がれ等)がない	<input type="checkbox"/>	
	天井、壁、設備等に緩み、腐食がない	<input type="checkbox"/>	
	監視員を適切に配置している	<input type="checkbox"/>	
	グレーチングが安定的に設置されている	<input type="checkbox"/>	
	プールサイドのすぐそばにAEDがある	<input type="checkbox"/>	
	観客席の柵が十分な高さを有している	<input type="checkbox"/>	
控え場所 (別施設)	壁、床面、設備等に緩み、腐食がない	<input type="checkbox"/>	
		<input type="checkbox"/>	
		<input type="checkbox"/>	
		<input type="checkbox"/>	
		<input type="checkbox"/>	
		<input type="checkbox"/>	
		<input type="checkbox"/>	
		<input type="checkbox"/>	
		<input type="checkbox"/>	

[illegible]

(別紙3)

2026年1月20日
リスク管理責任者

保険加入の推奨について

各大学では、万一の事故等に備えて、入学時に「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」に加入していると思われます。しかし、怪我の状況によっては補償内容が十分ではなかったり、賠償責任保険（相手に怪我をさせてしまった場合の保険）は学研災では補償されませんので、任意で以下に示す「学研災付帯学生生活総合保険（付帯学総）」や「スポーツ安全保険」への加入を推奨いたします。

【学研災付帯学生生活総合保険（付帯学総）】

付帯学総は、「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」及び「学研災付帯賠償責任保険」では補償が不足すると思われる場合に、学研災に加えて任意で加入できる保険です。

※詳細は以下のとおり。

学研災付帯学生生活総合保険（略称「付帯学総」）

<http://www.jees.or.jp/gakkensai/opt-gakuso.htm>

【スポーツ安全保険】

公益財団法人スポーツ安全協会の「スポーツ安全保険」への加入はクラブ単位での加入となり、クラブで手続きを行う必要があります。この保険は、スポーツ活動だけではなく、文化活動、レクリエーション、ボランティア活動でも保険の対象となります。怪我の多いクラブや、賠償責任（他人に怪我をさせてしまうこと、他人の物を壊してしまうこと）が発生するおそれのあるクラブは、積極的に加入をしましょう。

※詳細は以下のとおり。

スポーツ安全保険のしおり

<https://www.sportsanzen.org/hoken/grjkk10000000kre-att/grjkk10000000n3n.pdf>

(別紙4)

年 月 日

事故発生報告書（第 報）

	詳細	
事故発生日時	年 月 日 () 午前・午後 時 分	
事故発生場所	施設名（住所）、発生場所	
事故の内容	事故の詳細、経緯 負傷者の有無、程度 負傷者（有・無）→有の場合、() 名	
事故の経緯 ※「いつ、どこで、誰が、どうした」を明記すること	時 分 時 分 時 分 時 分	(事故発生) (発見) (通報)
作成者	(名前) (所属) (連絡先)	
作成日時	年 月 日 () 午前・午後 時 分	

(別紙5)

年 月 日

事故原因究明・再発防止策検討シート

リスク管理責任者 御中

所属

氏名

事故発生日時	年 月 日 () 午前・午後 時 分
事故発生場所	施設名(住所)、発生場所
事故の内容	事故の詳細、経緯 負傷者の有無、程度 負傷者(有・無)→有の場合、()名
事故の経緯 ※「いつ、どこで、誰が、どうした」を明記すること	(事故発生) (発見) (通報)
原因	
再発防止策	
コメント	

2025 年 7 月 1 日

公益財団法人日本水泳連盟
学生委員会 加盟校 各位

公益財団法人日本水泳連盟
学生委員長 三友 礼人

大学生のスポーツ・インテグリティの向上について

拝啓 時下、各校におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は、本委員会の活動に対し、ご理解、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

本委員会では、アンチ・ドーピング活動をはじめ、大麻・覚せい剤・危険ドラッグ等の薬物乱用防止、並びに二十歳未満の飲酒禁止など法令遵守について指導を行って参りました。また、昨今は様々なコンプライアンスの遵守が望まれる社会となり、セクシャルハラスメントやパワーハラスメント等のハラスメント行為に対しても厳しい目が向けられています。そして、闇バイトやオンラインカジノ等の新たな問題にも取り組まなくてはなりません。

アンチ・ドーピング活動、薬物乱用の禁止については、各校におかれましても、学生への教育・啓発活動がなされていることと存じます。本委員会加盟校の皆さんは、一人一人が意識を高め、毅然とした態度で競技者として模範となるような行動をとってください。本連盟が推進しております「アンチ・ドーピング活動」、厚生労働省、都道府県、(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターが行う「ダメ、ゼッタイ。」のキーワードによる薬物乱用防止キャンペーンと連動し、健全なる競技環境の整備に努めていただきたいと思います。

さらに、飲酒に関しても、今一度社会的ルールを遵守し、不幸な事故が発生しないよう十分注意し、行動するよう改めてお願い申し上げます。

1. 二十歳未満の飲酒は禁止
2. 酒の一气飲みは禁止
3. 飲酒の強要は禁止
4. 自動車、自転車等の運転者の飲酒は禁止
5. 酒の嫌いな者、体質的に受け付けない者もあることを十分に認識し、酒類以外の飲料を用意する

学生水泳界の益々の発展とその品位の向上のためにも、各校の部長、監督をはじめご指導に当たられている皆様には、学生に対しより一層の注意喚起、ご指導をいただきますとともに、指導者ご自身も健全な姿勢でご指導くださいますよう重ねてお願い申し上げます。

敬具

.....

日本水泳連盟 暴力行為等相談窓口

大学スポーツ協会 (UNIVAS) 相談窓口



いざ、というときは迷わず相談を！ 自分の大学の相談窓口も探してみよう。